

平成 30 年度 卵用讃岐コーチンの性能調査

川江早矢香・三谷英嗣

The performance survey of Sanuki Cochin. (2018.8-2019.11)

Sayaka KAWAE, Hidetugu MITANI

要 約

平成 30 年 8 月 29 日え付けの「卵用讃岐コーチン」の性能調査を実施した。体重は 21 週齢時に ♂2701.9g、♀2202.2g であった。♀の産卵成績は、産卵開始が 120 日齢、50%産卵到達が 130 日齢、64 週齢までの平均産卵率が 83.0%、ピーク産卵率が 97.9%、平均卵重は 36 週齢 55.7g、64 週齢 58.4g であった。

緒 言

当场では、昭和 59 年に鶏愛好家から譲り受けた鶏をもとに香川県の特産鶏を作出し、平成元年に「讃岐コーチン」と命名発表した。この鶏の生産性は高くなかったため、これをもとに平成 5 年に「肉用讃岐コーチン」、平成 7 年に「卵用讃岐コーチン」をそれぞれ実用鶏として作出し、以降、主に県内孵化場および農場へと種卵やひなを供給している。

今回は平成 30 年度に餌付けした「卵用讃岐コーチン」の性能調査が終了したので、その成績を報告する。

材料及び方法

1. 供試鶏

調査に供した鶏群は、平成 30 年 8 月 29 日え付けの鶏群より作出した。
人工授精で種卵を採取してひなをふ化させた。

表 1 供試鶏

鶏種（系統名）	系統由来	羽 数
卵用讃岐コーチン(D)	香川県畜産試験場 H29 年 4 月 D ♂×♀	♂60 羽、♀224 羽

2. 調査期間及び飼養形態

検定期間および飼養形態は、表 2、3 のとおりである。36 日齢以降は開放鶏舎で飼養し、産卵期間（21～65 週齢）の光線管理は、15 時間の明るい時間を確保するよう点灯時間を調整した。
検定期間は表 2 のとおりである。

表 2 調査期間

区 分	期 間
え付け	平成 30 年 8 月 29 日
育成期間	平成 30 年 8 月 29 日～平成 31 年 1 月 16 日
産卵調査期間	平成 31 年 1 月 16 日～令和元年 11 月 19 日

平成 30 年度 卵用讃岐コーチンの性能調査

表 3 飼養形態

日 齢	施	設
1～ 35 日齢	バタリー育雛機	850mm×2650mm／100 羽
36～120 日齢	群飼ケージ	間口 875mm×奥行き 555mm／6 羽
121～450 日齢	♀単飼ケージ	間口 230mm×奥行き 400mm／羽
	♂群飼ケージ	間口 870mm×奥行き 750mm／5 羽

3. 給与飼料

飼料は、表 4 の市販配合飼料を不断給与し、自由飲水とした。

表 4 給与飼料

区 分	粗蛋白質 (%)	代謝エネルギー (kcal)	形 状	給与日齢
幼雛育成用	21 以上	2,950 以上	クランブル	1～ 35 日齢
中雛育成用	17 以上	2,850 以上	マッシュ	36～ 70 日齢
大雛育成用	15 以上	2,800 以上	マッシュ	71～120 日齢
種鶏用	16 以上	2,800 以上	マッシュ	121～450 日齢

4. ワクチンプログラム

ワクチンプログラムについては、表 5 に示した。また、他の飼養管理については、当場の慣行法により実施した。

表 5 ワクチンプログラム

日 齢	ワクチン
0	MD(L)、NB(L)、FP(L)
7	IB(L)
14	IBD(L)
21	MG(L)、MS(L)、ND(L)、IB(L)
28	IBD(L)
35	NB(L)、AP(L)
56	CAV(L)、FP(L)
63	AE(L)、NB(L)
70	IB(L)
91	NB2GR(OE)、EDS(OE)

5. 調査項目

調査項目は表 6 に示す項目とした。

表 6 調査項目

区分	項目
孵化	受精率、中止率、死籠率、孵化率
育成率	140 日齢時羽数／え付け時羽数
生存率	490 日齢時羽数／141 日齢時羽数
体重	0、21、45、64 週齢
産卵	産卵開始日齢、50%産卵到達日齢、産卵個数、産卵重量、産卵率、平均卵重
卵質検査	卵重、卵形係数、卵殻強度、卵殻厚、ハウユニット

成績および考察

1. ふ化

ふ化成績は表 7 のとおりであった。参考値として、平成 25 年 9 月（H25）え付け鶏群の成績を下段に示した。

表 7 ふ化成績

鶏種（系統名）	受精率 （%）	中止率 （%）	死ごもり率 （%）	ふ化率(%)	
				対入卵	対受精卵
卵用讃岐コーチン(H30)	89.2	4.0	11.7	75.6	88.3
卵用讃岐コーチン(H25)	89.4	7.0	10.4	74.6	89.6

2. 育成率、体重及び生存率

1 週から 20 週齢までの育成率と 21 週から 64 週齢までの生存率、および 0、21、45、64 週齢時の体重を表 8 に示す。

♂は育成率が 75%と低い、これは体重測定時に低体重鶏を淘汰したためである。また、♂♀ともに生存率が低い、これは夏期から秋期にかけてのワクモ発生によるものである。

表 8 育成率、生存率および体重

項目	週齢	♂	♀
育成率(%)	0－20	75.0	95.0
生存率(%)	21－70	78.3	84.7
体重(g)	0	—	37.0 ± 3.38
	21	2701.9 ± 182.3	2202.2 ± 192.0
	45	—	2092.5 ± 176.1
	64	—	2363.1 ± 229.4
平均±標準偏差			

3. 産卵

H25 年鶏群の成績とともに H30 年鶏群の産卵成績を表 9 に示す。また、H・D の推移を図 1、卵重の推移を図 2 のグラフに示した。

38 週齢から 40 週（R1.5.15～6.3）にかけてワクモ発生のため産卵率が低くなったがその後は徐々に回復し、一定レベルを保ちつつ、試験を終了した。

表 9 産卵成績

平成 30 年度 卵用讃岐コーチンの性能調査

	産卵 開始 日齢	50% 産卵 日齢	21～64 週齢の成績				
			産卵率 (HD)	ピーク 産卵率 (%)	平均 卵重 (g)	飼料 摂取量 (g/羽・日)	飼料 要求率
卵用讃岐コーチン (H30)	120	130	83.0	97.9	55.1	114.3	2.41
卵用讃岐コーチン (H25)	120	133	84.7	95.7	56.5	107.4	2.27

図 1 産卵率 (H・D) の推移

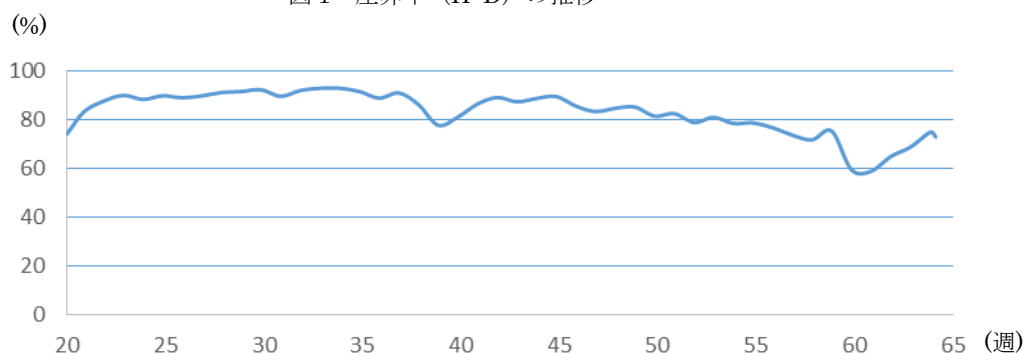
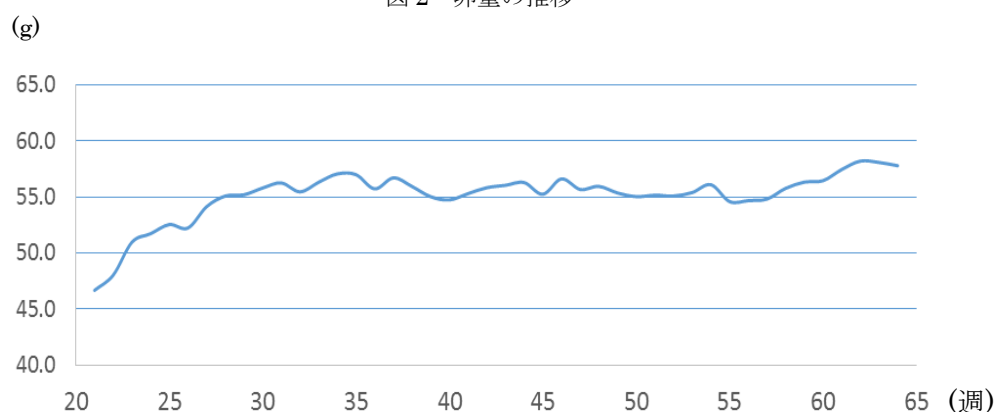


図 2 卵重の推移



4. 卵質検査

36 週及び 64 週齢時に実施した卵質検査の成績を表 10 に示す。使用機器は、卵殻強度計(富士平工業)、卵殻厚計(富士平工業)、エッグマルチテスター EMT-5000(全農)である。

表 10 卵質検査成績

週齢	個数	卵殻質				卵内容
		卵重(g)	卵形 係数	卵殻強度 (kg/cm ²)	卵殻厚 (10μm)	ハウユニット
H30						
36	60	55.7 ± 4.8	76.8	2.9 ± 0.8	32.4 ± 6.1	86.1 ± 7.2
64	60	58.4 ± 5.7	71.1	2.8 ± 0.7	35.6 ± 3.5	79.0 ± 13.1
H25						
36	60	52.5 ± 3.2	76.0	3.6 ± 0.7	41.1 ± 3.7	89.8 ± 5.2
64	60	52.6 ± 4.1	75.4	3.3 ± 0.7	34.4 ± 2.7	87.3 ± 8.8

参考文献

- 1) 萱原由美・渡邊朋子 平成 25 年度 卵用讃岐コーチンの性能調査.
香川県試験場報告. 第 50 号. 31-35. (2015)